

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|  |                       |  |   |
|--|-----------------------|--|---|
| 授業科目名<br>コミュニケーションスキル  |                       | 授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>若杉 諭美   | 実務経験                  | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等に携わった。                                |   |
| 授業担当者<br>大塚 三聖   | 実務経験                  | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。   |   |
| 授業の回数<br>15回   | 時間数(単位数)<br>30時間(2単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期   | ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 ) |
| [授業の目的・ねらい]<br>・他者と接する上で必要不可欠なコミュニケーションを行う上での基本的な姿勢がわかる。<br>・様々な場面に応じた対応の仕方や文章の書き方など実践を通して身に付けることができる。   |                       |  |   |
| [授業全体の内容の概要]<br>前半は実技として対人関係におけるマナーやコミュニケーションスキルを身に付ける。<br>後半は理論として敬語の使い方を始め、手紙やビジネス文章の書き方や接待マナーなどを身に付ける。  |                       |  |   |
| [授業終了時の達成課題(到達目標)]<br>・他者と円滑なコミュニケーションをとるための技術や方法を取得できる。<br>・敬語の使い方や手紙、ビジネス文章の書き方がわかる。<br>・冠婚葬祭や食事場面などにおける基本的なマナーがわかる。   |                       |  |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数   |                       |  |   |
| 1. 本授業の概要とコミュニケーションとは何か<br>2. アサーショントレーニング、ソーシャルスキルとは何か<br>3. アサーショントレーニング事例①(友人)<br>4. アサーショントレーニング事例②(同僚、上司)<br>5. アサーショントレーニング事例③(子ども)<br>6. アサーショントレーニング事例④(保護者)<br>7. 話し方のポイントと返事・挨拶<br>8. 敬語の種類<br>9. 電話のマナー(実習と関連付けながら)<br>10. 手紙やビジネス文章の書き方(実習のお礼と関連付けながら)<br>11. 保護者と来客対応<br>12. 乗車位置や接待などのマナー(忘年会・新年会などの食事場面)<br>13. 冠婚葬祭のマナー<br>14. まとめ<br>15. 試験 |                       |  |   |

|               |  |
|---------------|--|
| [使用テキスト・参考文献] | 必要に応じてプリントを配布する  |
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 査査点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul> |

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                       |   |   |
|---|-----------------------|---|---|
| 授業科目名<br>スポーツ理論   |                       | 授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ) ・ 演習 ・ 実習 )  |   |
| 授業担当者<br>大塚 三聖  |                       | 実務経験  | 県立高等学校にて、保健体育の科目や部活動の指導や生徒指導などに従事した。              |
| 授業の回数<br>8回   | 時間数(単位数)<br>15時間(1単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期  | ( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ) ・ 選択 ) |
| <p>[授業の目的・ねらい]<br/>ライフステージ各期の目指すべき健康像を把握し、それを実現するための知識を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]<br/>生きるための心身の健康について考えるとともに、身体の機能を知り効率的に健康の維持増進に対する理解を深める。また、スポーツへの関わり方への理解を深めることにより、自身の健康観について考えられるようになる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br/>年齢に合った健康な体力作りとその管理、維持、増進のための適切な運動、休養に対する知識を身につけ習慣化する。</p>  |                       |   |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数  |                       |   |   |
| <p>[健康について]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の生活と健康と心の健康</li> <li>2. 現代の社会と食生活と健康</li> </ol> <p>[運動について]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 健康との関係からみた体力と体力の構成要素について</li> <li>4. 身体活動と健康について</li> <li>5. 運動の必要性について</li> </ol> <p>[スポーツについて]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. スポーツをする意義について</li> <li>7. 「する」「みる」「ささえる」スポーツと私たちができること</li> </ol> <p>8. 定期試験</p> |                       |   |   |
| [使用テキスト・参考文献]   |                       | 大学生の健康・スポーツ科学<br>道和書院<br>編著者 大学生の健康・スポーツ科学研究会   |   |
| [単位認定の方法及び基準]   |                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(80%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(20%)<br/>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。</li> </ul> |   |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>(10%)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業への取り組む姿勢について関心や意欲を評価する。</li></ul> <p>(10%)。</p> |
|--|---|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                       |   |   |
|---|-----------------------|---|---|
| 授業科目名<br>子どもの生活と健康  |                       | 授業の種類 ( <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>瀧澤 延子  | 実務経験                  | 私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において0～5歳児の保育に従事した。<br>また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った                                 |   |
| 授業の回数<br>15回  | 時間数(単位数)<br>30時間(2単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期  | ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) |
| [授業の目的・ねらい]<br>養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、子どもの発達を保育所保育指針の乳幼児の視点、領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら具体的に理解し、保育現場における指導力を養う。<br>[授業全体の内容の概要]<br>子どもの健康を促進する側に立ったとき、「子どもの生活と健康」に関する現状把握とそれによる課題の特定は重要である。こどもの生活と健康に関する理解を深め、それらの結びつきから健康の実現を促す諸要因の働きについて学んでいく。<br>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br>子どもの健康に関わる課題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組むことができる素養を身につける。 |                       |   |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)  |                       |   |   |
| 1. 子どもの生活の変化と健康<br>2. 幼児期の健康と生活リズム<br>3. 生活の中での健康づくり<br>4. 体力・運動能力と動きの獲<br>5. 安全の指導及び配慮<br>6. 領域「健康」のねらいと内容の考え方<br>7. からだを動かそうとする意欲づくりと充実感を得るための方法<br>8. 7回目の実践<br>9. 0～2歳児の遊び<br>10. 3～5歳児の生活習慣<br>11. 3～5の運動遊び<br>12. 3～5の運動遊びの指<br>13. 保育者の役割<br>14. 食育<br>15. 試験  |                       |   |   |
| [使用テキスト・参考文献]   |                       | ・保育内容「健康」(建帛社)<br>・保育所保育指針<br>・プリント配布   |   |

|               |  |
|---------------|--|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|--|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                       |  |   |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名<br>子どもの生活と表現 I  |                       | 授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>羽瀧 めぐみ   | 実務経験                  | 公立・私立保育園、認定こども園にて0～4歳の保育、一時保育、子育て支援、保護者支援。こども発達相談室にて発達支援・相談業務などに従事した。                |   |
| 授業の回数<br>15回  | 時間数(単位数)<br>30時間(1単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期   | ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">必修</span> ・ 選択 ) |
| [授業の目的・ねらい]<br>・ 保育園で日常的に歌われる歌にできるだけ多く触れ、歌唱・手あそび歌・リトミック・わらべうた等の様々なかたちで現場に活かせるよう実践力と表現力を身につける。<br>[授業全体の内容の概要]<br>・ 園生活の歌・行事の歌・童謡等多くの歌を歌い、手あそび・ふれあいあそび・リトミック・わらべうた等の実際に保育園で役立つ音楽表現の演習を行う。<br>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br>・ 園生活の歌や童謡等を保育士にふさわしい声量と音程・表情で幅広く歌う技術を身に付け、場面に応じたものが提供できる。<br>・ 年齢や季節に即した表現活動を理解し、簡単な導入を交えて音を通した表現あそびの支援ができるようになる。  |                       |  |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)  |                       |  |   |
| 1. 4月の歌(ちょうちょ、チューリップ他) 自己紹介手遊び、春の手遊び歌<br>2. 5月の歌(こいのぼり、おかあさん他)、食べ物に関連した手遊び歌<br>3. 6月の歌(カエルの歌、かたつむり他)、輪唱の体験、導入に適した手遊び歌<br>4. 7月の歌(たなばた、みずあそび他)、生活歌を学ぶ、夏の手遊び歌①<br>5. 8月の歌(おばけなんてないさ、うみ他)、夏の手遊び歌②、リズム遊び①<br>6. 9月の歌(とんぼのめがね他)、文部省唱歌を学ぶ<br>7. 10月の歌(どんぐりころころ他)、わらべ歌について学ぶ<br>8. 11月の歌(まつぼっくり、もみじ他)、秋の手遊び歌、触れ合い遊び<br>9. 12月の歌(雪のこぼろず、ジングルベル他)、ゲーム手遊び、リズム遊び②<br>10. 1月の歌(お正月、ゆき等)、ジャンケン手遊び、リトミックについて学ぶ<br>11. 2月の歌(まめまき他)、冬の手遊び歌、リズム遊び③<br>12. 3月の歌(思い出のアルバム他)、手遊び発表の計画作り<br>13. 手遊びの実技テスト①<br>14. 手遊びの実技テスト②、これまでの学習まとめと振り返り<br>15. 定期試験 |                       |  |   |
| [使用テキスト・参考文献]   |                       | ・ 「たのしく遊べるこどものうた 改訂版」(すずき出版)<br>・ 「手あそび百科」(ひかりのくに)<br>・ 適宜プリント配布                     |   |

|               |  |
|---------------|--|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(ペーパー試験 40%・実技試験 40%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点 20%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(10%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|--|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                       |  |   |
|---|-----------------------|--|---|
| 授業科目名<br>子ども家庭福祉  |                       | 授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ) ・ 演習 ・ 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>佐藤 恵美子   | 実務経験                  | 私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3,4,5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。    |   |
| 授業の回数<br>15回  | 時間数(単位数)<br>30時間(2単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期   | ( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 ) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉の一翼である子ども家庭福祉について理解し、「社会福祉観」を構築する基礎をつくる。子ども家庭福祉における様々な法体系・施策(サービス)などについて理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における子ども家庭福祉の意義・役割等を明らかにする。</li> <li>・子ども家庭福祉の各施策(サービス)について、理解する。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷を理解する。</li> <li>・子どもの人権擁護を理解する。</li> <li>・子ども家庭福祉の制度と実施体系を理解する。</li> <li>・子ども家庭福祉の現状と課題を理解する。</li> <li>・現代の子ども家庭福祉の課題と展望を理解する。</li> </ul> |                       |  |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数  |                       |  |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉の理念と概念</li> <li>2. 子ども家庭福祉の構造と児童観</li> <li>3. 子どもの人権擁護の歴史的変遷</li> <li>4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題</li> <li>5. 子ども家庭福祉の制度と法体制</li> <li>6. 児童福祉施設及び子ども家庭福祉の専門職</li> <li>7. 児童虐待防止への取り組み少子化と地域子育て支援</li> <li>8. 多様な保育ニーズへの対応</li> <li>9. 障害のある子どもへの対応</li> <li>10. 少年非行などへの対応</li> <li>11. 貧困家庭・外国につながる子どもとその家族への対応</li> <li>12. ひとり親家庭への対応</li> <li>13. 子ども家庭福祉の動向と展望</li> <li>14. 「子ども家庭福祉」の学びのまとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>                      |                       |  |   |
| [使用テキスト・参考文献]   |                       | 児童の福祉を支える子ども家庭福祉 萌文書林  |   |

|               |   |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|---|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|  |                           |  |   |  |
|--|---------------------------|--|---|--|
| 授業科目名<br>情報 I  |                           | 授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )   |   |  |
| 授業担当者<br>桑原 勇重   | 実務経験                      |  |   |  |
| 授業の回数<br>15 回  | 時間数 (単位数)<br>15 時間 (1 単位) | 配当学年・時期<br>1 学年・前期   | ( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 ) |  |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入力操作に慣れる。</li> <li>2 ワードプロソフト「Word」、プレゼンテーションソフト「PowerPoint」の機能を理解する。</li> <li>3 「Word」や「PowerPoint」が扱える。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>機能面の説明から始め、PowerPoint を使った地図や図柄の作成や Word 使った簡単なビジネス文書を作成し、初心者でも、扱いに慣れるようにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 パソコンの基本的な操作方法を理解する。</li> <li>2 入力速度を向上させる。</li> <li>3 PowerPoint による図形作成ができる。</li> <li>4 Word によるビジネス文書が作成できる。</li> </ol> |                           |  |   |  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)  |                           |  |   |  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習室の利用方法・パソコン起動の説明</li> <li>2 タイピングの簡単な説明 I<br/>(キーボードの配置の説明他)</li> <li>3 タイピングの簡単な説明 II<br/>(タッチタイピングの基本)</li> <li>4 タイピングの簡単な説明 III<br/>(入力速度練習)</li> <li>5 PowerPoint の機能説明</li> <li>6 PowerPoint による図形作成 I<br/>(図形の挿入他)</li> <li>7 PowerPoint による図形作成 II<br/>(図形の書式設定他)</li> <li>8 PowerPoint による図形作成 III<br/>(図形のグループ化、挿入位置、回転他)</li> </ol>  |                           | <ol style="list-style-type: none"> <li>9 PowerPoint による図形作成 IV<br/>(ひよこの作成他)</li> <li>10 PowerPoint による図形作成 V<br/>(リス、チュリップ、おむすびの作成)</li> <li>11 Word の機能名称説明、Word を使ったビジネス文書の作成 I (ヘッダー入力他)</li> <li>12 Word を使ったビジネス文書の作成 II<br/>(フォント、段落の設定)</li> <li>13 Word を使ったビジネス文書の作成 III<br/>(インデント他の設定)</li> <li>14 Word を使ったビジネス文書の作成 IV<br/>(自力作成の練習)</li> <li>15 期末試験</li> </ol> |   |  |
| [使用テキスト・参考文献]  |                           | 保育者のためのパソコン講座<br>萌文書林 2,000 円+税  |   |  |
| [単位認定の方法及び基準]  |                           | <p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 考查点(60%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(40%)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への関心・意欲を評価する。(10%)</li> <li>・提出課題において、到達目標に達している点を評価する。(30%)</li> </ul> </li> </ol>  |   |  |

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|  |                       |  |   |
|--|-----------------------|--|---|
| 授業科目名<br>乳児保育 I  |                       | 授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ) ・ 演習 ・ 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>佐藤 恵美子  | 実務経験                  | 私立保育園にて未満児の保育。私立幼稚園にて3, 4, 5歳児の担任。公立小学校にて特別支援学級の介助員などに従事した。  |   |
| 授業の回数<br>15回   | 時間数(単位数)<br>30時間(2単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期   | ( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 ) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳児保育の意義・目的を踏まえ、保育所・乳児院などの乳児保育の現状を理解できる。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育を理解できる。乳児保育における職員間の連携について理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>3歳未満児の発達を理解するため基本的視点及び、発達段階を学ぶ。乳児保育の意義・目的・変遷・役割を学ぶ中で「養護」に対する基本的な考え方と心構えを取得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満児におけるそれぞれの時期の成長発達の特徴がわかる。</li> <li>・乳児保育の意義・目的がわかる。</li> <li>・3歳未満児におけるそれぞれの時期へのふさわしい関わり方がわかる。</li> </ul>   |                       |  |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数   |                       |  |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育とは</li> <li>2. 0歳児前半の発達の特徴(姿勢・運動・手指の発達)</li> <li>3. 0歳児前半の発達の特徴(社会的交流の力の発達・生理的リズムから社会的リズムへ)</li> <li>4. 0歳児後半の発達の特徴(姿勢・運動・手指の発達)</li> <li>5. 0歳児後半の発達の特徴(言語・認識・対人関係の発達)</li> <li>6. 1歳児の発達の特徴(全身運動・手指の操作)</li> <li>7. 1歳児の発達の特徴(言語・認識・発達・自我の発達)</li> <li>8. 2歳児の発達の特徴</li> <li>9. 乳児期の体</li> <li>10. 乳児の症状についての考え方</li> <li>11. 乳児期に見られる病気</li> <li>12. 乳児の養護</li> <li>13. 乳児の養護の実際</li> <li>14. 「乳児保育I」の学びのまとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol> |                       |  |   |
| [使用テキスト・参考文献]  |                       | テキスト乳児保育改定新版   |   |

|               |   |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|---|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|  |                           |  |   |
|--|---------------------------|--|---|
| 授業科目名<br>保育原理 I  |                           | 授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>若杉 諭美   | 実務経験                      | 私立幼稚園、私立保育園において保育の特性について多岐に学びながら乳幼児の保育や保護者支援等について携わった。                             |   |
| 授業の回数<br>15 回  | 時間数 (単位数)<br>30 時間 (2 単位) | 配当学年・時期<br>1 年・前期  | ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 ) |
| [授業の目的・ねらい]<br>・ 保育の実践を支える理論的な基礎を構築するため、保育の意義と目的を理解する。<br>・ 保育に関する法令及び制度を理解した上で、現代で求められている保育内容や保育士の社会的役割について理解する。<br>[授業全体の内容の概要]<br>・ 保育の理念・概念・法令・制度などを知り、それに基づきながら、保育を行う上で必要な基本的知識を得る。また理解だけでなく、必要な時にはシュミレーションやディスカッションを通して、将来的に長く活用できると知識の定着を図る。<br>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br>・ 保育とは何か、子ども理解、保育の環境、保育内容と方法、保育の過程など保育の全体像について理解することができる。また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察することができる。 |                           |  |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数   |                           |  |   |
| 1. 「保育」とは何か、「保育」を行う施設と人<br>2. 「保育」「教育」「養護」という言葉について<br>3. 現代における保育の基盤を学ぶ<br>4. 子ども観と保育の内容・方法<br>5. 保育における「子ども理解」とは<br>6. 子どもの発達を捉える様々な「まなざし」<br>7. 子どもが育つ環境の基本<br>8. 子どもを取り巻く環境と保育<br>9. 保育の基本と保育内容・方法について<br>10. 子どものための保育内容とは<br>11. 子どものための保育方法とは<br>12. 保育における計画とその種類<br>13. 子ども理解に基づいた評価の重要性<br>14. まとめ (プレテスト実施)<br>15. 期末試験   |                           |  |   |
| [使用テキスト・参考文献]  |                           | ・ 「新しい保育講座①保育原理」 (ミネルヴァ書房)<br>・ 保育所保育指針解説 (フレーベル館)                                 |   |

|               |   |
|---------------|---|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|---|

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|  |                       |   |   |
|--|-----------------------|---|---|
| 授業科目名<br>保育内容総論  |                       | 授業の種類 ( <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 ) |   |
| 授業担当者<br>瀧澤 延子   | 実務経験                  | 私立保育園、私立幼稚園、公立保育園において<br>0～5歳児の保育に従事した。<br>また、担任業務、主任業務、実習生指導を行った                             |   |
| 授業の回数<br>15回   | 時間数(単位数)<br>30時間(2単位) | 配当学年・時期<br>1年・前期  | ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) |
| [授業の目的・ねらい]<br>保育所保育指針における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を学ぶ。<br>また、それらを構成している保育の多様な展開についても学ぶ。<br>[授業全体の内容の概要]<br>保育内容とは、幼稚園・保育園・認定こども園などにおける保育の目的を達成するために展開される保育の営み全てであり、相互に関連し、総合的に指導・展開されるものであることを、テキストや具体的な保育の実践事例を基に学んでいく。<br>[授業終了時の達成課題(到達目標)]<br>学生自らの主体的態度を育み、保育者として保育の多様な展開について必要な保育実践力を身につける。 |                       |   |   |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)   |                       |   |   |
| 1. 「保育内容」とは何か<br>2. 保育内容の歴史的変遷と保育所生活の全体構造<br>3. 発達の捉え方と保育内容<br>4. 保育内容における遊びの意味<br>5. 保育の一日と内容<br>6. 多様な保育・子育て支援の展開<br>7. 乳児保育<br>8. 長時間保育<br>9. 病児・病後児保育<br>10. 特別な支援を必要とする子どもの保育<br>11. 多文化共生の保育<br>12. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携<br>13. 保育内容と子ども理解<br>14. 保育内容の課題と保育者の専門性・展望<br>15. 試験                                |                       |   |   |
| [使用テキスト・参考文献]  |                       | ・「保育内容総論」(建帛社出版)<br>・保育所保育指針<br>・プリント配布   |   |

|               |  |
|---------------|--|
| [単位認定の方法及び基準] | <ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%)<br/>到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul> |
|---------------|--|